

Rock on Green!

2025年4月期 第2四半期
決算説明資料

2024年12月10日

株式会社グリーンエナジー&カンパニー

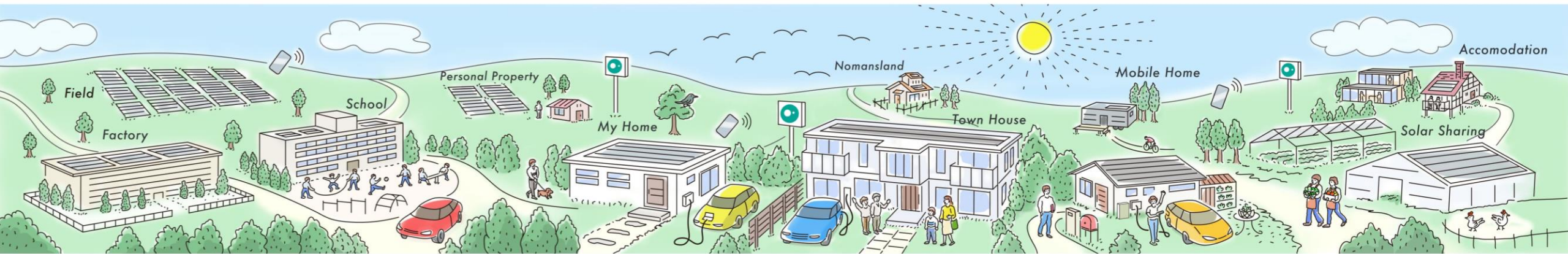


証券コード1436

株式会社グリーンエネルギー&カンパニーから投資家の皆さまへ

再生可能エネルギー市場は未来の世界的産業です。

欧米中と比較して市場形成が遅い日本市場も、これから各社の参入・形成が進みます。



当社の思想である「個人参加型持続可能エネルギー社会」に

共鳴いただける仲間（カンパニー）と共に、

日本の再生可能エネルギー市場における代表的プレイヤーとなることに照準を置いています。

中期経営計画「Green300」進行状況

- 「開発数最大化」戦略の元、Non-FIT開発区画数は前年対比約3.4倍と伸長
- 上記に伴う組織体制の強化やDX投資等も進み、一時的費用増が見られるものの、計画は概ね順調
- また新注力事業の系統用蓄電池においても受注獲得を実現し、更なる商品展開も実現できた

25年4月期第2四半期実績

- 売上高、売上総利益は増収増益（前年同期比）、太陽光発電施設の工事完成に一部の遅れが生じるも、通期影響はなし
- 開発・販売体制強化に伴う人件費増等により、販管費が増加するも期初予想通り
- 1Qに引き続き開発仕入による棚卸資産は順調に増加。財務の安定性を意識した経営を継続

1. 25年4月期第2四半期決算概要 … P. 5
2. 中期経営計画 Green300
(25年4月期- 29年4月期) の進捗 … P. 15
3. Appendix … P. 21

1

25年4月期第2四半期決算概要

2025年4月期 第2四半期 連結業績概要



売上高、売上総利益は前年同期超えで推移
 営業利益、経常利益、当期純利益は一時的費用の支出増も軽微

(単位：百万円)	24年4月期 第2四半期 (連結)	売上対 構成比	25年4月期 第2四半期 (連結)	売上対 構成比	対前年同期比	25年4月期 第2四半期 (累計) 計画	対計画比
売上高	4,625		4,848		104.8%	5,000	97.0%
売上総利益	1,209	26.2%	1,219	25.1%	100.8%	—	—
販売費及び一般管理費	1,009	21.8%	1,057	21.8%	104.8%	—	—
営業利益	200	4.3%	161	3.3%	80.5%	200	80.5%
経常利益	191	4.1%	133	2.7%	69.6%	180	73.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	111	2.4%	81	1.7%	73.0%	105	77.1%

一部の発電所の工期伸長により計上ズレ生じるも、通期影響無

- 系統用蓄電池事業への先行支出
- 人員増強の増加
- 持株会社化、社名変更に伴う一時的費用等

2025年4月期 第2四半期 事業領域別の状況



(単位：百万円)	売上高	前年同期比	営業利益※	前年同期比
フロービジネス	4,233	105.7%	294	113.1%
太陽光発電施設 当期販売区画数137.08区画（前年同期106.03区画）	1,494	117.2%	95	110.5%
ネットゼロ・エネルギー・ハウス 当期販売棟数109棟（前年同期116棟）	2,739	100.3%	199	114.4%
ストックビジネス	615	99.5%	171	85.5%
O&M※事業及び発電事業 当期管理件数1,937件（前年同期1,980件）	615	99.5%	171	85.5%
合計	4,848	104.8%	465	101.1%

※ O&Mは、太陽光発電施設等のオペレーション&メンテナンス（施設の維持管理）をいいます

※ 営業利益は共通経費配賦前になります

2025年4月期 第2四半期 連結貸借対照表

中期経営計画「Green300」の推進拡大に伴い棚卸資産は順調に増加

(単位：百万円)	24年4月期 期末	25年4月期 第2四半期末	対前年期末 増減額
流動資産	10,249	11,201	952
現金及び預金	1,569	1,068	▲ 501
棚卸資産	6,418	7,581	1,163
その他	2,260	2,551	290
固定資産	1,873	1,891	17
資産合計	12,122	13,093	970
負債	7,089	7,994	904
有利子負債	4,719	6,190	1,471
純資産	5,033	5,099	65
自己株式	▲ 174	▲ 149	25
負債・純資産合計	12,122	13,093	970

太陽光発電施設、系統用蓄電池及び
ネットゼロ・エネルギー・ハウス用仕入

棚卸資産増加に伴う借入増

2025年4月期 第2四半期 連結キャッシュ・フロー

開発規模拡大に伴う棚卸資産増により上期営業CFが減少
 下期の完工納品により通期営業CFは改善見込み

(単位：百万円)	24年4月期 第2四半期	25年4月期 第2四半期	対前年 増減額
営業活動によるCF	884	▲ 1,847	▲ 2,731
投資活動によるCF	▲ 323	▲ 107	216
財務活動によるCF	▲ 875	1,456	2,331
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	▲ 314	▲ 498	▲ 183

太陽光発電施設、系統用蓄電池及び
 ネットゼロ・エネルギー・ハウスの棚卸資産の増加

棚卸資産増加に伴う借入増

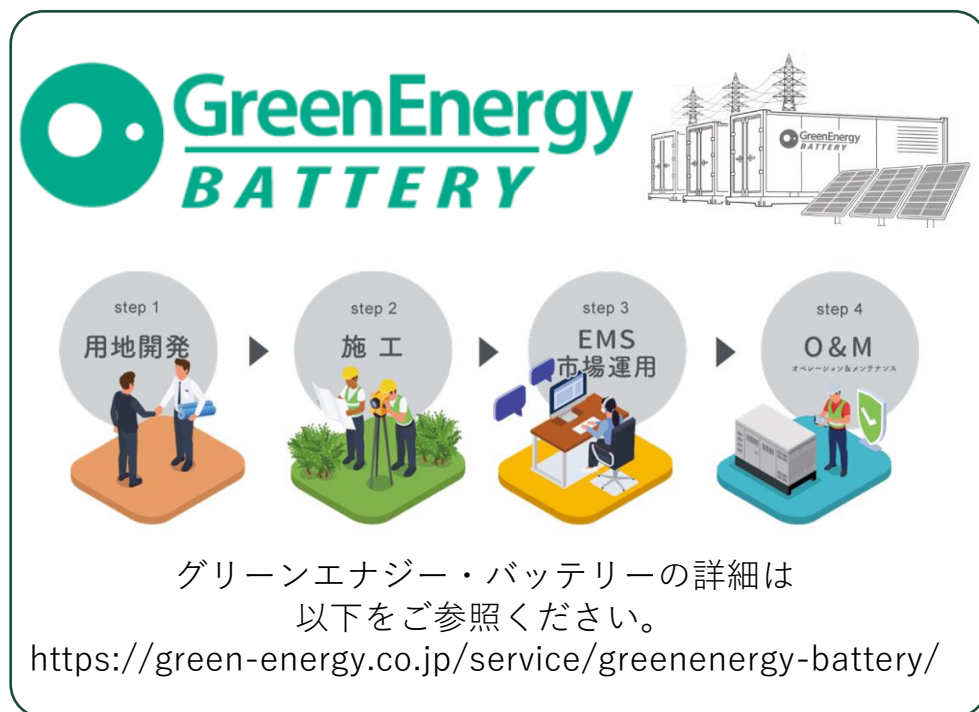
2025年4月期 連結業績予想

当初の計画通り、第4四半期において完工引渡物件数多く、売上/利益共に通期予想に変更なし

(単位：百万円)	24年4月期 実績	25年4月期 予想	対前年比 通期
売上高	9,676	11,500	118.9%
営業利益	512	600	117.1%
経常利益	502	560	111.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	330	360	108.9%

事業活動トピックス：系統用蓄電池一括受注サービス 成約

系統用蓄電池一括受注サービス「グリーンエネルギー・バッテリー」第一号成約受注獲得



GreenEnergy
BATTERY

step 1 用地開発
step 2 施工
step 3 EMS 市場運用
step 4 O&M
オペレーション&メンテナンス

グリーンエネルギー・バッテリーの詳細は
以下をご参照ください。
<https://green-energy.co.jp/service/greenenergy-battery/>

成約



GRANDES
株式会社 グランディーズ

系統用蓄電池事業

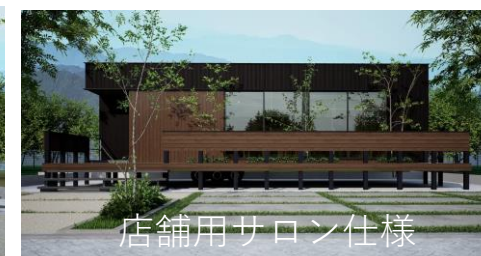
株式会社グランディーズ
証券コード：3261
(東京証券取引所グロース市場、福岡証券取引所Q-Board市場)

新しい取り組みである「系統用蓄電池事業」も順調に進行

事業活動トピックス：トレーラーハウス〈ASOBOX〉開発・販売



再生可能エネルギーを活用、住宅メーカーとして培ったノウハウを活かし、規格化とDX化で高品質・低価格のトレーラーハウスを実現



固定資産税
不要

建築確認申請
不要

市街化調整区域
OK

使い方自由
(場所・用途)

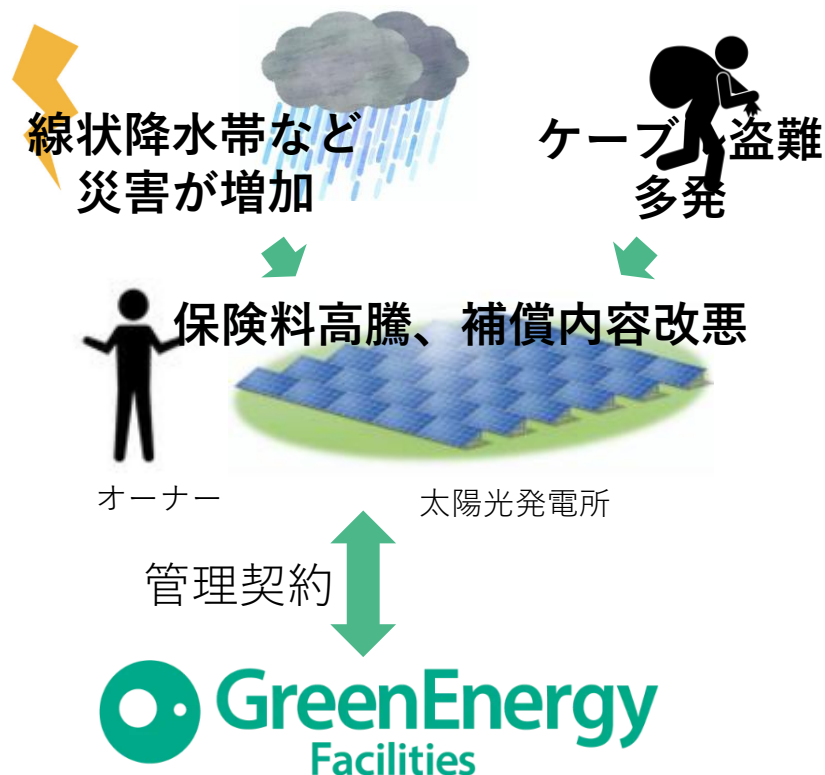
土地売却容易

災害復興
活用可能

これまでのマイホーム需要に加え、住居型投資物件として個人投資家の新たな獲得が可能に

事業活動トピックス：太陽光発電所「保険付帯管理プラン」開始

災害・盗難保険がセットになった太陽光発電所管理サービスを提供開始



GreenEnergy
Facilities

直観している5つの現実 特徴 料金 よくある質問 手続きの流れ お問い合わせ

自然災害・盗難リスクから発電所を守る！
太陽光発電
保険付帯管理プラン
新登場

保険 と 管理 が、これ一つでカバーできる

自然災害、盗難、法改正…予測できないリスクに備えた万全のプラン。
コストを抑えつつ安心を叶える、いま最も必要な管理プランを用意しました。

お問い合わせはこちら

自然災害
補償
5年

利益補償
1年

免責無※

セカンダリー
可能

5年長期契約

保険+点検
+除草

これらがセットで18万円/年でご提供

※盗難は免責50万円有

保険ニーズでお困りの発電所オーナーに訴求、新規管理物件の獲得拡大に寄与

企業トピックス：NIKKEI脱炭素プロジェクト参画継続

当社の「マイクロGX」※構想を同プロジェクト総会にて提唱



NIKKEI脱炭素プロジェクトとは、日本経済新聞社による日本の脱炭素社会を後押しする活動です。同じ志を持つ企業、有識者、政府関係者らが集い、脱炭素社会を現実のものにしていくために活動・発信する取り組みです。メンバーで意見を出し合い「提言/宣言」を作成、政府に提出します。



10月 年次総会
(ホテルニューオータニ東京)

※「マイクロGX」とは、個人事業者、家庭、地域コミュニティが小規模な単位で実践するグリーン・トランスフォーメーションをいいます



グリーンエネルギー&カンパニー
代表取締役社長 鈴江崇文

個人や地域で形成するボトムアップ型の脱炭素社会普及の可能性と有効性を訴求

2

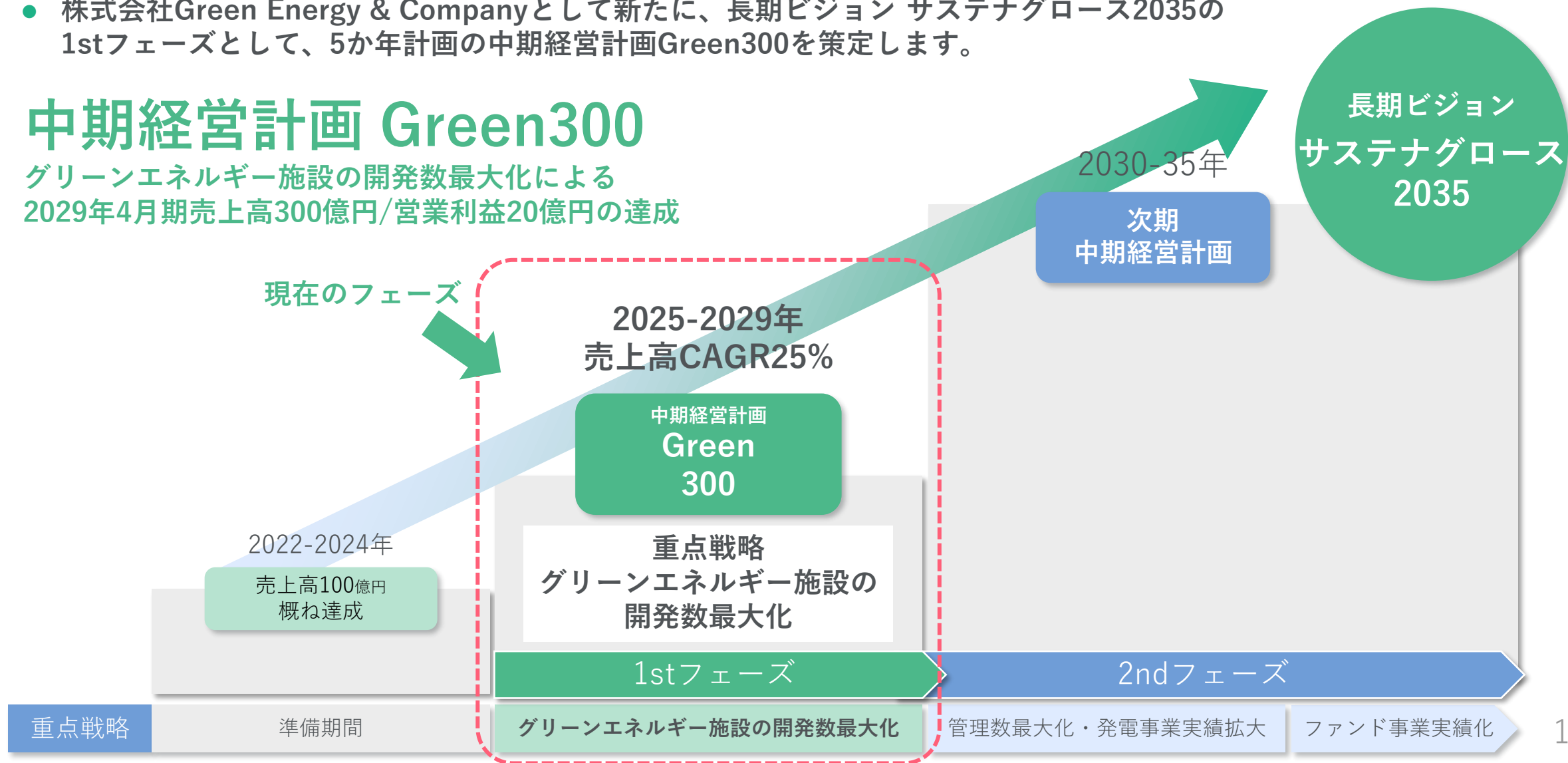
中期経営計画 Green300 (25年4月期- 29年4月期) の進捗

中期経営計画 Green300（25年4月期- 29年4月期）の位置づけ

- 株式会社Green Energy & Companyとして新たに、長期ビジョン サステナグロース2035の1stフェーズとして、5か年計画の中期経営計画Green300を策定します。

中期経営計画 Green300

グリーンエネルギー施設の開発数最大化による
2029年4月期売上高300億円/営業利益20億円の達成



現在進行中の戦略：開発数最大化

- 2024年4月期までの準備期間を経て本中期経営計画においてグリーンエネルギー施設の開発数を最大化します。

太陽光発電施設

FIT発電所EPC※



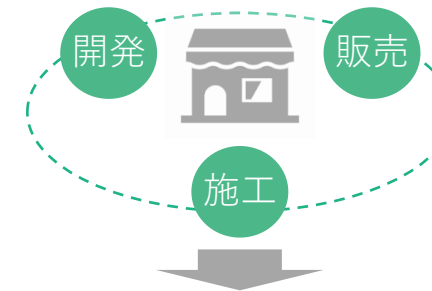
全国展開実績

Non-FIT発電所EPC

関東エリア高圧発電所実績化
低圧発電所開発体制構築

ネットゼロ・エネルギー・ハウス

店舗ユニット



四国・大阪店舗数の拡大

これまでの取り組み

今後の戦略

低圧・高圧両面での
開発進行本格化

エリア内ユニット数拡大
(ドミナント戦略によるシェア拡大)

※ EPCはEngineering（設計）、Procurement（調達）、Construction（建設）の事業の事をいいます

現在進行中の戦略：太陽光発電施設の戦略進捗

- Non-FIT発電所 低圧・高圧両面での開発区画数が伸長
- 組織体制の強化及びデジタル技術を活用した生産効率の追求にも注力

Green300における取り組み

低圧・高圧両面での開発進行をグリーンエネルギー&カンパニーの強みである「規格化」をテコに開発・販売のスピードを加速化

重点戦略

	低圧	高圧
Non-FIT	開発体制の構築	関東での実績化
FIT	全国展開の実績積み上げ	全国展開の実績積み上げ

エリア戦略

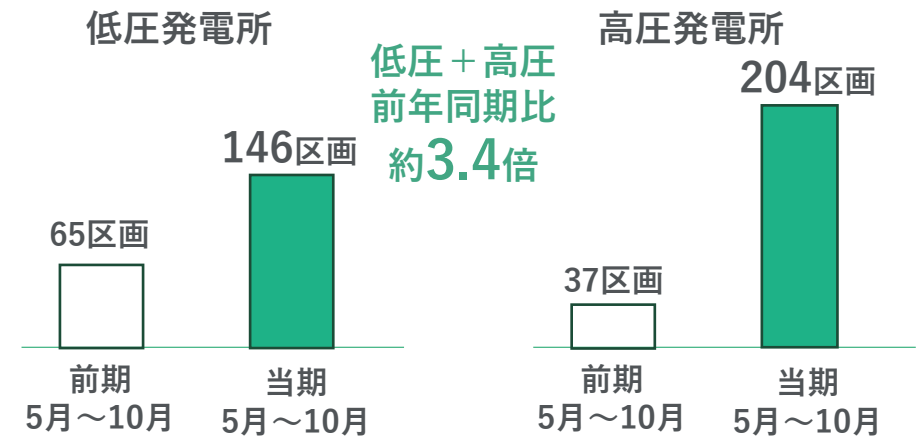
- ① 関東
- ② 四国
- ③ 中部（静岡・愛知・三重・岐阜・長野・山梨）

投資計画

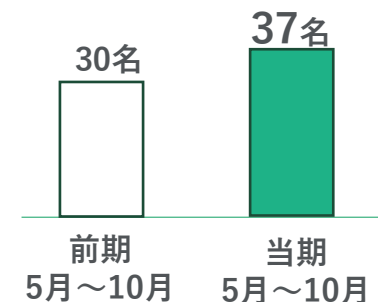
	人的投資	設備投資	DX投資	資本政策
Non-FIT	◎	○	◎	◎
FIT	○	△	△	△

※ ◎は重点投資、○は積極投資、△はニュートラルを意味します

Non-FIT開発数※用地取得ベース



Non-FIT組織人員数



DX投資

各種土地データベース
調査連携システム

施工管理システム強化
ANDPAD採用・導入



ネットゼロ・エネルギー・ハウスの戦略進捗

- 前期に拡大したユニット体制の軌道化が進み開発仕入棟数が順調に伸長

Green300における取り組み

ドミナント戦略に基づく、エリア内におけるユニット数の拡大及び事業エリアの拡大

重点戦略①：店舗ユニット数の拡大

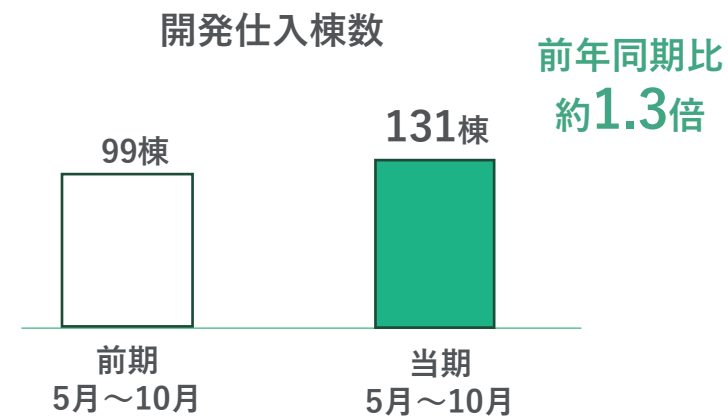


重点戦略②：事業エリアの拡大

- ・ 継続的に四国・大阪店舗数の拡大
- ・ 全国展開は、フランチャイズまたは事業買収により実施

当期は前期までに拡大したユニット・店舗の軌道化に注力

新規入社社員の稼働向上により進行棟数拡大を実現化



ストックビジネス戦略 (O&M)

- フロービジネスにおけるグリーンエネルギー施設の開発数最大化によりストックビジネスのコアであるO&M事業における管理数の最大化を図ります。

オーガニックグロース

Green300におけるコア戦略である
フロービジネスにおける
開発数の最大化

太陽光発電施設

ネットゼロ・
エネルギー・ハウス

インオーガニックグロース

自社開発物件以外の管理物件を
M&Aや資本業務提携を経て獲得

M&A

資本業務提携

O&M事業

フロービジネスにおけるオーガニックグロースと
インオーガニックグロースにより
管理数の最大化を図る



太陽光発電のオペレーションと
メンテナンス、自社修繕、費用や発電収支への
補償のスキーム等ワンストップでご提供



新規管理物件獲得：
保険付帯管理プランの開発・販売
前項P.13参照

3

Appendix

Purpose

Vision

Value

サステナブルな
社会の実現を
新しい常識で





個人参加型、
持続可能エネルギー社会
の実現

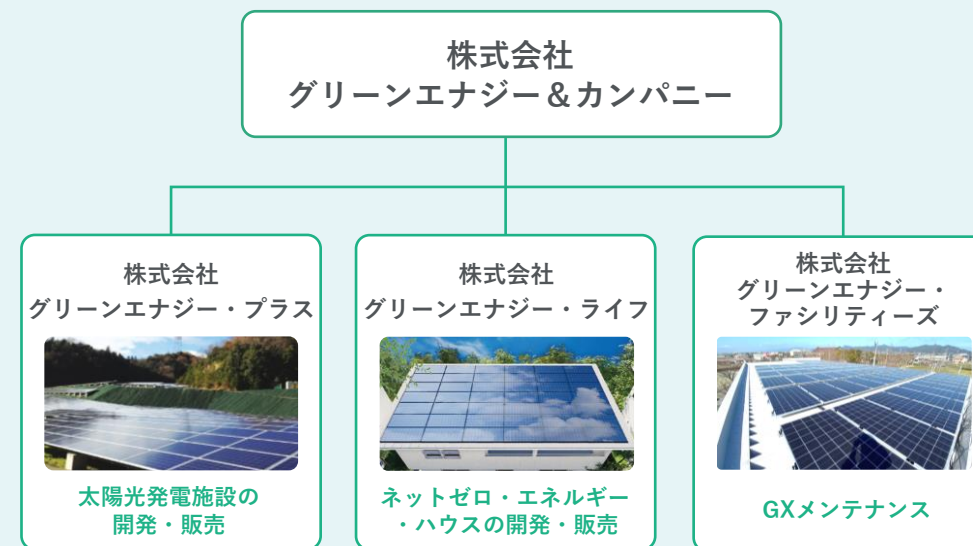
Governance : 誠心・誠意・誠実に
Rock : 楽しく！仕事も人生も
Engagement : お客様と社会と共に
Execute : ACTION ACTION ACTION
New Challenge : 自分事で積極的に

会社概要



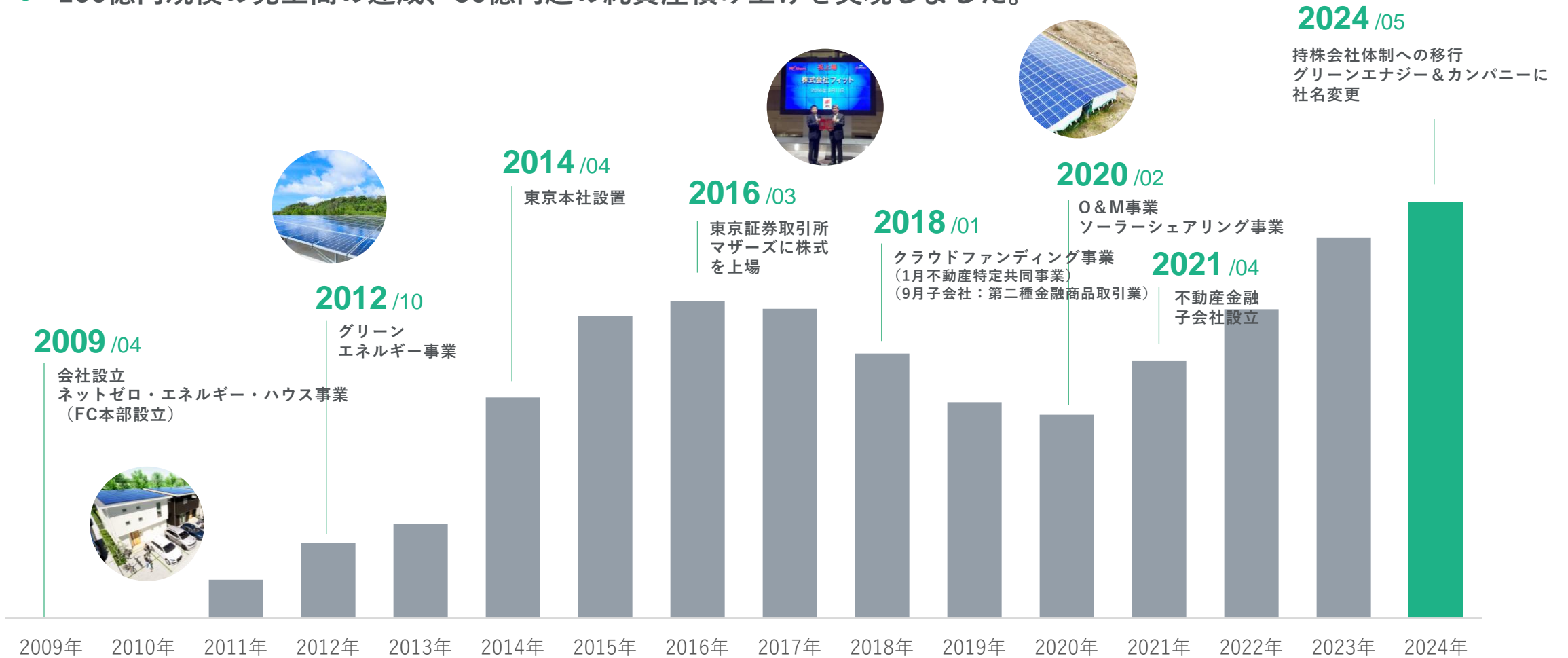
商号	 株式会社グリーンエネルギー&カンパニー
上場	東京証券取引所グロース市場 1436 
代表者	代表取締役社長 鈴江 崇文
本社所在地	東京本社：東京都港区東新橋1-1-19 ヤクルト本社ビル8F 徳島本社：徳島県板野郡松茂町 中喜来字群恵39番地1
創立	2009年
資本金 ※2024年4月末日時点	970百万円（資本準備金含む）
連結従業員数 ※2024年10月末日時点	147名
連結売上高 ※2024年4月末日現在	96億円
事業内容	GX関連企業で構成されるグループ会社の経営管理及びそれに付帯する業務

- 2009年 徳島県で創業
ネットゼロ・エネルギー・ハウス事業に参入
- 2012年 グリーンエネルギー事業に参入
- 2016年 東証マザーズ上場（徳島県で初）
- 2024年 社名変更 持株会社体制へ移行



成長の軌跡

- 100億円規模の売上高の達成、50億円超の純資産積み上げを実現しました。



グリーンエネルギー&カンパニーの起源 ~Origin~

- 規格化と再エネの掛け算がグリーンエネルギー&カンパニーの起源になります。



株式会社グリーンエネルギー&カンパニー 代表取締役社長 鈴江 崇文

1997年：大手ハウスメーカー入社、注文住宅営業を担当
2001年：大手建材メーカーグループ入社、住宅フランチャイズ加盟店の指導を担当
2003年：徳島県のゼネコンに入社、営業推進業務と企業改革を担当
2009年：株式会社フィットを設立
2012年：クリーンエネルギー事業への取り組み
2016年：東証マザーズに上場
2024年：グリーンエネルギー&カンパニーに社名変更

規格化

- 徳島県の負債を抱えたゼネコンにて、業界不況の中で大改革を断行しました。20億円以上の既存事業をすべて縮小し、新規事業として「規格化」をテーマに、極限まで無駄を削ぎ落とし効率を追求した「規格型住宅事業」に取り組み、経営危機を乗り越える
- 当事業は全国の建設業界で注目される実績を上げる
- 当事業を独立させ、株式会社フィットを設立

再エネ

- 2011年のドイツ視察にて、ソーラーエネルギーなどのエネルギー政策、公共交通機関を中心とした都市デザイン、緑の保護条例など、先進環境対策と快適性が注目される都市、フライブルクに出会う。
- その地域経済活性化と域内循環モデルの原動力が再生可能エネルギーであったことから、このスキームを日本の地域経済循環モデルに活かすことを着想。

グリーンエネルギー&カンパニーのプロダクト

- 太陽光発電施設、ネットゼロ・エネルギー・ハウス等の低圧グリーンエネルギー施設の規格化ノウハウを活かし全国へ展開します。

太陽光発電施設

再生可能エネルギー発電所



営農型太陽光発電所※1

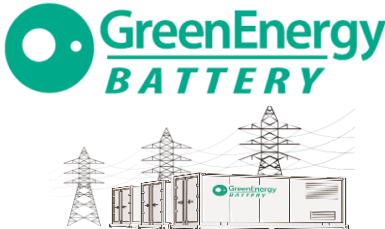


系統用蓄電池

系統用蓄電所※2



系統用蓄電池一括受注サービス



ネットゼロ・エネルギー・ハウス

スタンダードモデル アップグレードモデル



「稼働できる」家



「稼いでくれる」家



「シェアする」家



スマート農業

室内栽培システム



太陽光併設養鶏施設



※1 営農型太陽光発電所は、農地に太陽光発電パネルを設置し、農業と発電を同時に行う発電所をいいます
 ※2 系統用蓄電所は、電力系統に接続する大規模な蓄電池をいいます

グリーンエネルギー施設※1開発数

4,785件※2

太陽光発電施設開発数（2024年10月時点）および
ネットゼロ・エネルギー・ハウス※3開発数（2024年10月時点）の合計

※1 グリーンエネルギー施設は、太陽光発電施設とネットゼロ・エネルギー・ハウスの総称をいいます

※2 創業来の会社集計値

※3 ネットゼロ・エネルギー・ハウスは、年間で消費するエネルギー量を実質ゼロ以下にする家（ZEH）をいいます



本参考資料の内容には、将来に対する見通しが含まれている場合がありますが、実際の業績は様々な要素により、これら見通しと大きく異なる結果となりうることをご了承ください。

会社の業績に影響を与えうる事項の詳細な記載は「有価証券報告書」の「事業等のリスク」にありますのでご参照ください。ただし、業績に影響を与えうる要素は「事業等のリスク」に記載されている事項に限定されるものではないことをご留意ください。

本資料・データの無断転用はご遠慮ください。

IRに関する問い合わせ先：ir@green-energy.co.jp